

平成30年度が始まりました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。
ご笑覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all. No.107

H30. 10. 31～11. 2日 「高等学校生徒会フォーラム」

ネイパル深川で開催されました「生徒会フォーラム」に、本校からも生徒会執行部の生徒11名が参加させていただきました。この事業は、生徒会活動の一層の活性化を目的に、近隣の高校生が集まり、講演や各校の取組紹介等を通して、活動の幅を広げる貴重な機会であります。



今年度も64名の生徒会執行部の皆さんが一堂に会し、三日間にわたる交流を体験しました。学校づくりは、教師集団だけでは成り立ちません。生徒が主体的に高校生活全般に関わってこそ息が吹き込まれるものです。



本校の生徒会はとても意欲的です。生徒総会、いじめ根絶宣言、校内標語コンクール、学校祭、体育大会等、年間を通じて様々な活動の企画立案や運営を行っています。また、他校との交流、留学生との文化交流、ボランティア活動等、校外との関わりにも実に積極的です。

今回の交流を通して、また新たな発想を持ち帰ってきてくれたのではないかと大いに期待するところです。

All for one, and one for all. No.108

H30. 11. 4～11日 「JENESYS2018(2018)」

日韓交流文化基金が主催（外務省からの委託）する事業に、2年次生 谷村 礼菜さんと遊佐 七海さんが参加しています。今回は、韓国訪問団の第3期として、道内各地から引率者を含め約70名が派遣されました。

現地では、学校訪問、文化施設見学、ホームスティなど、多彩なプログラムが計画されており、生徒にとって貴重な体験となることと思います。

本校では、今後必ず必要となる国際感覚の育成を重視し、留学・短期海外派遣・国際文化交流・インターネット交流・英語ボランティア等、希望者を対象に様々な機会を設けています。報告会での経験談等を聞いて、興味関心を持つ生徒が少しでも増えてくれればと願っています。



All for one, and one for all. No.109

H30. 11. 5 「新聞技術講習会」

高文連上川支部新聞技術講習会を開催しました。今年度は本校が当番校となり、講師に北海道新聞部専門委員長の 秋田 隆之 先生をお招きし、主に新聞紙面の使い方について学びました。



管内からは7校37名の生徒が集いました。記事の基本的な書き方、取材の仕方、効果的な見出しの付け方など、学校ごとに発刊している新聞を秋田先生に直に見ていただき、それぞれのポイントについての確かなアドバイスを受けました。

活字離れが続く中、各学校で発刊される新聞は在校生の身近な話題の情報源となっています。今回、学んだ技術を是非今後の活動に生かし、さらに多く

の在校生の関心を引き込んで欲しいと思います。

私も「永嶺新聞」の発刊を楽しみにしている一人です。いつも応援していますよ！

All for one, and one for all. No.110

H30.11. 7 「薬物乱用防止教室&防犯教室」

今年度も、旭川東警察署から警務課 大根 尚之様と生活安全課 佐藤 愛美様のお二人にお越しいただき、薬物の怖さやインターネット等によるトラブル対処法について、貴重なお話を伺いました。

薬物では、「人間の心身を破壊してしまう薬の特性や作用」、「薬物という犯罪を犯した後の処遇」などについて、スライドを併用しながら詳しくご説明いただきました。ちょっとした気の緩みや遊び心が、一生を台無しにしてしまうほど薬物は怖いものです。

また、インターネット等のトラブルでは、実例をもとに犯罪から身を守る方法についてご教示くださいました。いずれも身近なトラブルばかりで、改めて見えない存在の怖さを実感させられます。



時代の急激な変化とともに、様々な危険が目に見えない形で押し寄せてきています。生徒には、自ら身を守る術を、今日の講話をきっかけに真剣に考えて欲しいと思います。

All for one, and one for all. No.111

H30.11. 7 「北海道教育大学体験学習」

キャリア教育の一環として、「北海道教育大学旭川校体験学習」を当初の予定どおり実施しました。将来「教育の道」を志す生徒を対象に、大学紹介、模擬講義、OB・OGとの懇話会、学食などの体験機会を持ってもらうことで、大学への深い理解や進路希望実現への意欲啓発を目的とした取組です。



今年度も35名の生徒が参加し、大学職員の皆様や先輩方から多くのことを学ばせていただきました。大学の模擬講義も、先輩との対談も、高校生にとっては全てが新鮮であり、憧れの的として映ったことと思います。この経験を是非現実につなげて欲しいものです。

本校では、体験学習を中心とする「キャリア教育」

に力点を置いています。様々な環境や多様な人々との出会いから、多くを学び、多くを感じ取ることで、視野が飛躍的に広がります。

大学職員の皆様をはじめ、ＯＢ・ＯＧの方々には、大変貴重な時間を割いていただきました。この場をお借りし、心より厚くお礼申し上げます。



All for one, and one for all. No.112

H30.11. 8 「授業公開」

本校では、日々授業改善を図り、学習内容や教科指導の在り方を互いに研究することに努めています。特にアクティブラーニングを柱とする「公開授業」を、今月5日から2週間にわたって実施しています。



授業参観はいつでも可能ですが、この2週間は特に強化週間と銘打ち、多くの先生が教科に関係なく、どの授業にも気軽に参観できるよう配慮しています。2週間後には、互いに感想を持ち寄り、意見交換を行います。

普段なかなか足の運ぶきかけのない先生方も、この時ばかりは、異なる教科から多くの刺激をもらい、自らの授業改善に生かしているようです。

All for one, and one for all. No.113

H30.11. 9 「国際理解高校生の集い」

勤労者福祉会館で行われた国際イベントに、1・2次生合わせて28名の生徒が参加してきました。

「グローバル教育」は、本校が重視している3つの柱のうちの一つで、こうしたイベントに多くの生徒が参加するようになったことは、校長として嬉しい限りです。

各関係機関と連携し、留学の促進、来道留学生との文化交流、留学大学院生の講話、海外短期研修、報告会など、先生方とともに積極的に進めてきました。当初は躊躇気味な生徒も、一度参加すると、すぐに溶け込み抵抗感を薄めていきます。



同世代の国境を越えた触れ合いは、時間とともに言語への抵抗をなくし、絆を深め、コミュニケーション能力を向上させていきます。やはり「若さには大きな力」が宿っているようです。

この「国際理解高校生の集い」には、10校142名の生徒が参加しました。グループに分かれて、「私の住む地域にまつわるもの」について、各国のALTの皆さんと対話をし交流を深めました。また、ALTの皆さんや留学経験者によるプレゼンテーションを聞き、外国の歴史や社会事情についても理解を深めたようです。



大変良い経験をさせていただきましたね！



All for one, and one for all. No.114

H30.11. 9 「高大教科連携」

旭川医科大学で行われている、「高大教科連携事業」をちょっと覗いてきました。今年度3回目となる今日の実習は、免疫染色（共焦点レーザー顕微鏡）と電子顕微鏡画像による細胞の同定についてでした。

最新の設備を用いたり、専門的な生物の講義を聴いていると、いつのまにやら大学生になった気分です。知らないことを知る喜び、最先端の機器から得る驚き、何もかもが新鮮で楽しい内容ばかりです。

この「生物」を柱とする高大教科連携は、今年度で2年目となりますが、こうした体験ができる生徒は本当に幸せだと思います。旭川医科大学の 平 義樹先生には感謝の気持ちで一杯です。高校の中では決して味わうことのできない貴重な体験を、今後の大きな夢に繋げてくれることを願っています。



All for one, and one for all. No.115

H30.11.13 「2年次進路説明会」

過日、見学旅行を終え、見聞を拓けた2年次生の次なる目標は、進路希望の実現です。この時期、最も大切なのは気持ちの切り替え！旅行の余韻にいつまでも浸っていては、完全に出遅れてしまいます。

今日は、個々の進路希望に合わせ、専門機関の外部講師に今やるべきことや今後の道筋について、資料を交えながら詳しいアドバイスをいただきました。努力なしに夢を実現することはできません。しかし、裏を返せば、今から無理のない努力を積み重ねることで、夢が叶うと言うことです。



夜は「保護者向け」の進路説明会を実施し、生徒同様、外部講師の専門的な話を聞いていただきました。保護者の皆様にも進路に深く関わっていただき、一緒に明るく希望に満ちた将来を考えていきたいと思うからです。

All for one, and one for all. No.116

*エイリョウ・アラカルト 「センター試験まで2ヶ月足らず」



3年次は、いよいよ各種受験が本格化してきました。推薦受験は既に始まっており、生徒の目にも真剣さが漂います。昼休みや放課後は、いたる所から面接や小論文指導の声が聞こえてきます。受験は、その場しのぎの取組でどうにかなるものではありません。後悔することのないよう、「今」という時間を少しも

無駄にすることなく、精一杯力を出し切って欲しいものです。

授業にも熱が入ります。たまたま見学した古典の授業では、漢文の「十八史略」と「史記」について学習していました。よく練られた教師の授業も素晴らしかったですが、それを深い学びにと積極的に取り組む生徒の姿にも感銘を受けました。

学校中に程よい緊張感が漂います。それぞれの年次が今やるべきことと真摯に対峙しているからでしょう。



All for one, and one for all. No.117

H30. 11. 27～30 「後期中間考査」

4日間にわたり行った定期考査が終了しました。3年次生にとっては「内申書」に関わる極めて大事な考査であり、見学旅行を終えた2年次生にとっては「進路目標」を固めていく上での指針となる考査であり、そして、1年次生にとっては次年度の選択科目の「学習理解度」の目安となる考査とあります。



将来を考え、一人一人が各々の思いで望んだ定期考査だけに、結果が次のステップになることを祈るばかりです。

推薦入試に挑戦している3年次生は現在健闘中ですが、よく耳にするのが、「あの時もう少し頑張っておけば良かった！」です。

今やるべきことに全力を尽くさなければ、必ず後悔しますよ！

All for one, and one for all. No.118

H30. 11. 29 「学校評議員会」

「第2回学校評議員会」を開催しました。学校評議員の皆様には、大変お忙しい折にお集まりいただき、貴重なご意見を数多くいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

話題は、今年度重点的に取り組んできた ①グローバル教育の推進、②地域と連携した取組の拡充、③高大連携による教育的効果の3点とし、ご意見をいただきました。

「グローバル教育」では、語学ができるかできないかということだけに拘るのではなく、コミュニケーションをとるための視野の拡大の重要性についてご意見がありました。グローバル教育に係る「教育活動の目的」を今一度考え直す良いきっかけとなりました。

「地域との連携」では、各取組の意義を理解させる上で大切なことは、物事の断片だけを経験させるのではなく、最初から最後までを系統的に行うことが必要とのご意見をいただきました。このことは、現在の教育改革に直結する課題解決方策とも重なります。

「高大連携」では、今後の見通しをご説明した後、教育活動の有効性を図る相互理解の大切さについてご意見をいただきました。

学校評議員の皆様からいただいたご意見は、まさに喫緊の課題解決の大きなヒントとなるものばかりでした。今後は、具体的な方策に基づいて各教育活動に迅速に反映していきたいと考えています。

